



# 筑後市のブランド化は

山下 元生 議員

ウジャムを完成させた。また「かすりの里」めぐり事業は、県内外からかすりファンが訪れ好評を得ている。

## 羽犬塚駅周辺整備と用途地域見直しは

**問** 羽犬塚駅周辺整備とそれに伴い都市計画マスタープランの中で、今後3年間で見直すと答弁された用途地域の見直しの進捗状況と、見直し作業の構成メンバーは。

**市長** 羽犬塚駅はいうまでもなく筑後市の表玄関であるとして、十分に理解している。駅東口は、集合住宅の完成により人口はこの5年間で藤島行政区だけで約170

人ふえており、今後は西口にアクセス道路を作り、居住人口をふやして活性化を図っていきたい。

**都市対策課長** 7月上旬をめぐりにプロポーザル方式で業者選定し市民参加型のマスタープランを策定する。用途の見直しについては、十分に市民の意見が通る市民参加型のメンバー構成で作業を進めていきたい。

## 市民聴講生のねらいは

**問** 市民聴講生の制度は。 **学校教育課長** 新たな事業として、小・中学校の授業、行事等を生涯学習の場として教育活動を展開する。

# 「意識改革」ゆっくりでは意味がない

田中 親彦 議員

## 緊縮型財政お金がないときの経営をどうする

**問** 出前市長室で市民の意見や陳情を真摯に聞いていくか。金がないからできないでは市の役割を果たしたことになる。行政判断をなぜ時代に見合った経営感覚で対応出来ないか。

**市長** お金はない。陳情を承る出前ではない。この時代社会全体が意識を持ち直すことが極めて大事で、住民と行政の情報の共有化に限られた財源を生かしたい。

**問** 住民と行政の協働のまちづくりで職員の意識改革が大事といい、総合案内の職員研修はいつ完結するのか。

**市長** 地域起こしをやるにはまず職員研修が大事、職員の意識が変わらない限り住民の皆さんに地域自立を要求することも出来ない。職員研修の意味でまだ必要

だ。

**問** 市民は行政の知恵で変化する困難な財政に対応できる経営能力に期待している。「筑後市の行政マン」である市職員のラスパイレース指数とその報酬に値する職員の志気は見合っているか。

**市長公室長** 指数は県内3位、見合っているとは言えない。給与が高い割には職員の士気が低いと想定する。

**市長** 職員組合との交渉でも給料は下げる程よいとは申ししていない。仕事に対する意欲と結果を人事評価す

る筑後市方式をつくり職員

## 市補助金削減平成19年度実施に間に合うか

**問** 広報ちくこで筑後市補助金検討委員会の最終提言を平成18年度末にまとめる予定とあるが、その行程で19年度予算に対応できるか。

**総務課長** 平成19年度に反映させるため、予算編成に間に合うよう10月をめどに最終答申をいただきたいと考えている。

**問** 筑後市を売り出す妙案と、「筑後」という冠のついたブランド品の開発は。

**市長** 筑後の名を広めることと、筑後の名前を冠に抱く新しい伝統をつくり上げることは共に大事であり、広く市民の皆さんと一緒にブランド化を図っていききたいと思っている。

## 商工観光課長

平成15年度に地域支援試作品開発委員会を、県・市・商工会議所・事業者と市民代表等で立ち上げ、17年度までに農業・商業が連携し、ナシジャム・イチゴジャム・ブド



JR羽犬塚周辺整備 完成した山ノ井踏切



荒廃農道(市道)の地区草刈清掃作業